

NPO法人 風の家

+

活動拠点 ぶらっと広島



ニュースレター 第2号
2012年1月25日

矯正施設出所者等の社会復帰における社会的包摂とは何か？

“ 社会から排除されることと
社会に包摂されること ”

20世紀の終わりが近づくにつれ、経済的に発展したヨーロッパ諸国において「社会的排除」という言葉が社会のありようを考える上で重要な考えとして浮かび上がってきました。貧困、ホームレス、マイノリティ、元受刑者などの支援において叫ばれている「社会的包摂」という考えは、この「排除」概念と対立される概念です。排除のない社会を目指すことが、包摂という言葉には込められています。この排除には3つの要素があげられています。

- 1 排除の状態だけではなく、排除が生じる過程、仕組みを含めること
- 2 問題は所得だけではないこと
- 3 権利を守り必要なサービスを利用することからの排除であること

社会との関係が途切れ、生活上の困難があっても助けを求められない→生活がうまくいかない→経済的に困窮する→その結果健康状態や精神状態が悪化する→余計に生活が困難となる、そうした経過と結果の全てを社会からの排除と呼んでいます。この過程は経済的な側面だけでなく、同時に周囲の人や社会に対する不信感を募らせ、ますます孤立し、人間関係からも排除されていく、そうした悲劇を引き起こすわけですが、したがって社会的包摂という考えは、単にある1人の人が社会の中で他者とつながりを持って生活することだけを意味するのではなく、むしろそのようなつながりを失わずに維持できる仕組みを築いていくことを意味しています。矯正施設出所者等に対してはどのようにすればこの仕組みを構築できるのでしょうか。

様々な障害を抱えた人たちがその障害のために犯罪を行った時、彼らを矯正施設に収容することは、その社会生活を分断するという点で社会からの排除を構成すると言われていてます。これについて興味深い研究があるのですが、社会福祉給付と矯正施設への拘禁率は反比例の関係にある、軽微な窃盗などの犯罪に対し、生活を保障することで矯正施設への収容という社会からの排除を防いでいるようなのです。同じ研究から、保証か収容かというその違いを生み出しているのは、政治や法など権威に対する縦の信頼と地域の間人間関係に対する横の信頼であることも明らかになっています。

風の家が行っている居場所や宿所の提供事業はこうした文脈において、縦と横の交差するところで社会への包摂を目指そうとするものです。

賛助会員募集

+

寄付のお願い

風の家における活動の一部は、独立行政法人福祉医療機構による社会福祉振興助成事業の支援を受けています。しかし、その活動はさらに多くの方からの力添えを必要としています。また私たちは、この活動がみなさまからの支援を得ることで、地域に根ざしたものとなることを願っております。そのために賛助会員として、あるいは寄付を通じて、この活動を支えていただけるようお願いをしております。ぜひ裏面の連絡先までお問い合わせ下さい。

風の家ニュース

一昨年のNPO法人設立申請から半年ほど経った2011年3月時点で、風の家は居場所ぶらっと広島を拡張し、出所者等の引き受けを可能にする宿所を整備しました。これらの整備によって、風の家は広島保護観察所による自立準備ホームとしての認定を受け、同じく広島家庭裁判所による補導委託先としての認定を受けました。

これによって保護観察や試験観察などに付された成人や少年を引き受けが可能になるとともに、経済的には委託料などの収入を得ることが出来ます。また、広島市中区保護係との連携による生活保護受給者の生活指導についても委託を受け、宿所利用時の宿泊料の支払いを受けることになりました。そのように、いくつかのルートで利用者を引き受け、財政面での基盤を固めることが出来ました。その期待に応えられるよう、来年度も活動を続けていきたいと思えます。

“社会システムへの信頼と人への信頼が結びつくこと”

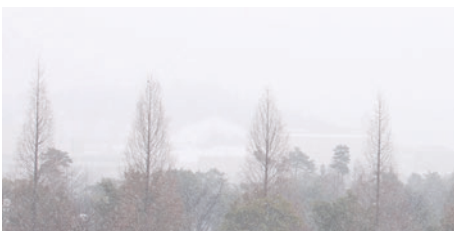
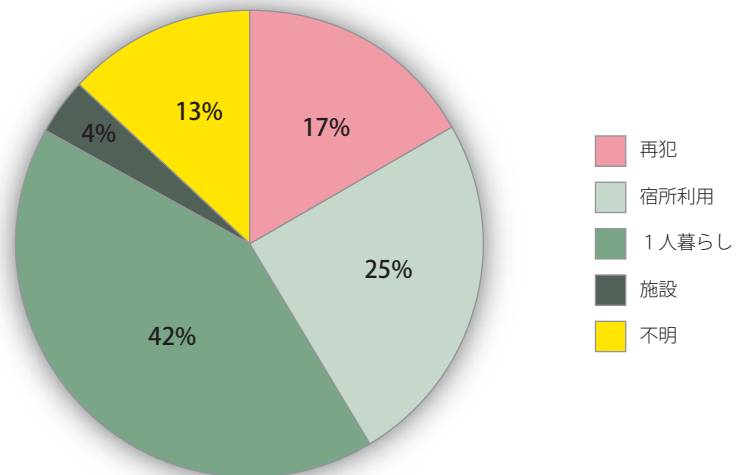
それでは具体的に、風の家ではどのように社会的包摂を可能としているのでしょうか。右下に示しているグラフは、一昨年8月より引き受けを行ってきた、矯正施設出所者等における昨年12月一杯での転帰を表したものです。風の家で引き受けた人のうち71%が社会の中での生活を維持していますが、これは風の家が引き受けている出所者等が他に行き場がなかった人々であることを考えると十分に高い値となります。これを可能としているのは、既存の更生保護の枠組みを超えた、長期の、専門的な支援であり、そのための居場所の提供にあると私たちは考えています。

現在、風の家では居場所として「ぶらっと広島」を開設し、食事の提供を行っています。夕食時になると利用者が集まり、ゆっくりとした交流の時間を持ちながら帰っていきます。赤ちゃんがお母

さんとの間に特別な結びつきを持つのはお母さんが空腹を満たしてくれるからか、それともお母さんという存在そのものが赤ちゃんにとって大事なのか、という議論がかつてありましたが、ことほどさように食べることは愛することと近いところにあります。食事を提供することは空腹を満たすだけでなく、利用者のこころを満たすものでもあり、それを包み込むのが居場所という空間なのです。

ここには社会のルールが存在しており、ここを起点として福祉や

医療サービスの利用が行なわれ、就労等の支援がなされています。そうにして「ぶらっと広島」は、社会のシステムに対する信頼と、人とのつながりという信頼とを結びつける、大事な結節点となっているのです。居場所の存在自体が1つのシステムであり、その場所を利用することが社会の中に含まれて生きることを可能にする過程を生み出しています。私たちはこうして、矯正施設出所者等に対する社会的包摂を実現しようとしているのです。



特定非営利活動法人 風の家 + 活動拠点 ぶらっと広島
〒730-0853 広島県広島市中区境町 2-1-12-201

☎ 082-232-6696

✉ buratto-hiroshima@wine.ocn.ne.jp

🌐 <http://www3.ocn.ne.jp/~kaze/>